

説明案件 事業名称など	ジオパークアクションプランの進捗状況について
事務・業務の概要	<p>佐渡ジオパークは昨年、日本ジオパーク委員会が実施する再認定審査を受け、条件付再認定となった。次回の再認定審査は平成 31 年度に実施される。</p> <p>審査の際 9 項目の課題が示され、課題解消に向けての実施計画（アクションプラン）を作成し、日本ジオパーク委員会に提出している。現在アクションプランに基づき各課題に取り組んでいる。</p>
経 過	（課題など）
	<p>アクションプランのうち、特に急ぐ必要がある概ね 1 年以内に改善すべき課題のうち、「3つのプログラムの関連性の明確化」と「サイトの再設定」を重点として取り組みを進めており、その進捗状況は以下のとおりである。</p> <p>1．3つのプログラムの関連性の明確化          まずは3つのプログラムの担当者会議を開催し、類似点・相違点の確認を行った。続いて3つのプログラムの関わりを整理し、関係者の理解を深めるための啓発資料の原案を作成中。</p> <p>2．サイトの再設定          調査研究部会を主体に、「ジオサイト設定総合計画」を作成し、来年度の再審査までに島内 10 エリアのうち、これまでガイドの活用等の実績も多い、小木・相川・国中エリアを先行して順次再設定を行っている。</p> <p>○ その他 1 年以内に解決すべき課題のうち、「佐渡ジオパークという文字の視認性の向上」については          広報部会を主体に、宿泊・観光施設、交通機関等にのぼり旗の配置及びパンフレット類の定期配布を実施。また、佐渡への玄関口である佐渡汽船船内及びターミナル内に看板類を設置するため佐渡汽船と調整中。</p> <p>○ 拠点施設の整備方針について          佐渡博物館、両津郷土博物館のいずれかを拠点施設とすべく検討を進めている。佐渡博物館は講座（座学）や調査研究を行うスペースが確保できない状況である。一方両津郷土博物館は、収蔵施設としての活用他、ジオパークとしての講座や調査研究、さらには市民大学講座や島外学生等の調査研究の拠点としても活用が可能と思われる。ただし、使用にあたっては施設の老朽化が進んでいることから、耐震補強工事や改修等の多額の経費がかかることが想定される。</p>
今後の方針	（協議案件など）
	<p>1．3つのプログラムの関連性の明確化について、庁内においては庁議などの場で説明し、共通理解を得ていく。推進協議会においては運営委員会、部会での説明を行い、会員全体での共通理解を促進していく。</p> <p>2．拠点施設の整備について、現在博物館整備計画の策定が進められており、その内容を踏まえつつ、今後拠点施設として利用可能な両津郷土博物館を中心に検討していく。</p> <p>3．その他の課題についても、アクションプランに基づき課題解消に向け取組を進めていく。</p>
そ の 他	